

ヒューマン・キャッチャー

2004(平成16)年5月30日鑑賞(ユウラク座)



監督・脚本=ヴィクター・サルヴァ/製作総指揮:フランシス・フォード・コッポラ/出演=レイ・ワイズ/ジョナサン・ブレック (20世紀フォックス映画配給/2003年アメリカ映画/102分)

……突然風のように空から現れて、人間をわしづかみにしてさらっていき、喰ってしまうのは、「クリーパー」という、こうもりの怪物。この怪物がなぜか23年毎に現れ、23日間人間を喰いまくるという設定だが、思わず、途中目を伏せてしまうシーンも……。こんなホラー映画は大キライ!!

製作総指揮はフランシス・フォード・コッポラだが……

この映画の「売り」は、あの『ゴッドファーザー』(72年)など、数々のすばらしい作品を残したフランシス・フォード・コッポラ監督が製作総指揮をつとめたこと。

もっとも、監督と脚本はヴィクター・サルヴァだから、コッポラが、具体的にどの程度関与しているのかは疑問だが……?

怪物のイメージは?

この映画の邦題は『ヒューマン・キャッチャー』だが、原題は『ヒューマン・キャッチャー』に『Jeepers Creepers 2』というサブタイトルがついている。

そして、このクリーパーとはこうもりを大型化したような怪物で、ヒューマン・キャッチャー。

つまり、突然空から風のように舞い降りてきて人間に襲いかかり、その頭をわしづかみにして連れ去り、これを喰ってしまうという怪物。そして、なぜかこのクリーパーは、23年毎に現れ、23日間人間を喰うという設定。

映画の冒頭、そういう字幕が流れるので、それを約束ゴトとして観なければならぬものの、思わず、「何で23日やねん！」と叫びたくなったが……。

始めと終わりはファミリーのシーン

この映画の大きなストーリーは2つで、その1つはファミリーの物語。

映画の冒頭は、農場で働く父親と、これを手伝う長男、次男のシーンから。そこで、突然クリーパーに襲われるのは次男……。

クリーパーによって次男を奪われた父親は、手製のモリを作ってクリーパーへの復讐に執念を燃やすことに……。

そして、父親と長男の2人が、力を合わせて、このにつきクリーパーをやっつけるわけだ。

そして、ラストは再び23年後の父親と長男のシーン。この父子の登場で始まり、ラストは23年後の父子の再登場で終わる、というストーリー展開となっている。

被害者は高校生のバスケットチーム

もう一つのストーリーは、試合を終えたバスケットボールの高校代表チームがスクールバスに乗って帰る途中、クリーパーに襲われるもので、これがメイン。バスはパンクさせられて立ち往生となり、まず先生が襲われ、そして順次、恐怖に襲われた生徒たちが1人ずつ……。

恐怖におびえる高校生たちの「個性」を適当におりませながらのクリーパーとの「対決」シーンには、それなりの工夫がされていることはまちがいない。

また、これでもか、これでもか、とくり出されるクリーパーのバケモノぶり(?)はホラー映画として一級品かもしれない。しかし、何ととっても、気持ち悪いことはたしか。

やっぱり私は、お金を出してまで(もつとも、無料チケットで入場したものが)、こんなホラー映画はあまり観たくない……？

2004(平成16)年5月31日記